

プラスゲレル錠「日新」 を服用される患者さんへ

こうけっしょうばんやく

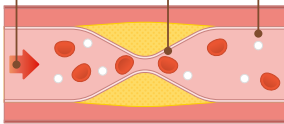
このお薬は、抗血小板薬とよばれ、血小板の働きを抑えて血栓（血のかたまり）をできにくくし、血管がつまるのを防ぎます。

きょけつせいしんしゅかん きょけつせいのうけっかんしゅがひ

虚血性心疾患や虚血性脳血管障害の患者さんは血栓ができやすく、血栓が血管内でつまることにより、血液の流れが悪くなったり止まったりします。

狭心症

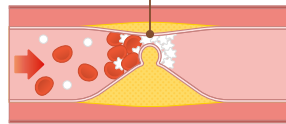
血液の流れ 赤血球 血小板



心臓の血管が動脈硬化や血栓により狭くなる

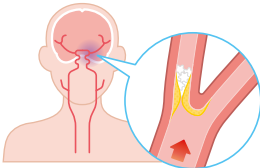
心筋梗塞

血栓



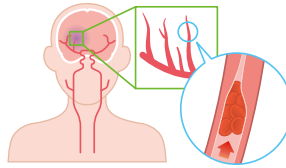
心臓の血管が血栓で完全に詰まる

アテローム血栓性脳梗塞



脳の血管が動脈硬化を起こして詰まる

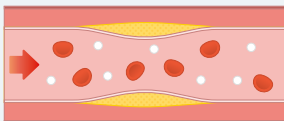
ラクナ梗塞



脳内の細い動脈が詰まる

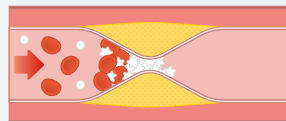
抗血小板薬の働き

このお薬を服用した場合



血小板が集まってかたまりができるのを防ぎ、
血液を流れやすくして、血栓を防ぎます

治療しなかった場合



血栓ができ
血管がつまってしまうことがあります

お薬を服用中の注意

- 1日1回服用するお薬です。医師の指示通りに毎日きちんと服用してください。
- このお薬を服用し続ける期間は、患者さんの病気の状態によって異なります。自己判断で中止したり、服用回数を減らしたりすることは絶対にしないでください。**血栓により血管がつまってしまうおそれがあります。**
- 飲み忘れた場合は、気づいたときにすぐに服用してください。ただし、次の服用時間が近い場合は1回分お休みして、次の服用時間から通常通り1回分を服用してください。**絶対に2回分を一度に服用しないでください。**
- このお薬の服用中は、歯の治療(抜歯)・手術・内視鏡検査などの際に血が止まりにくくなる場合があります。また、他のお薬との飲み合わせによって、このお薬の作用の強さが変わることがありますので、**歯科や他科を受診する際には、このお薬を服用していることを必ず医師に伝えてください。**
他科での治療の際に、このお薬の服用を中止するよう指示された場合には、服用を中止する前に、必ずこのお薬を処方した医師に相談してください。
- 転院するときは、このお薬を処方した医師に処方歴を記載してもらい、転院先の医師にこのお薬を服用していることを伝えてください。

このお薬を服用している間は、血が止まりにくいため、出血に注意が必要です。

定期的に受診をして、医師や薬剤師の指示を守ってください。

このお薬などの抗血小板薬を服用している間は、通常よりも出血しやすく、また、出血した場合は血が止まりにくくなります。

以下のような症状があらわれた場合には、すぐに医師へ連絡して指示に従ってください。また、血液検査を受けるなど医師の指示に従ってください。

重大な出血時の症状

- 激しい頭痛、手や足のマヒ、ろれつが回らない
- 血痰・吐血（痰に血が混じる、嘔吐物が黒っぽく、血が混じる）
- 血尿や血便（尿が茶色っぽくなる、黒っぽい便、血が混じる）

予期せぬ出血など

- 転倒や事故などによる外傷で出血がなかなか止まらない
（特に頭部の出血は要注意）
 - ➔ 頭部を打った場合は、たとえ出血していなくとも、受診しましょう
- 紫色や赤色のあざ
- 鼻血や歯茎からの出血

出血時の応急処置

外傷で出血したとき ➡ 手指やタオルなどでグッとおさえる(圧迫止血)

鼻血が出たとき ➡ うつむいて鼻をおさえる

出血を避けるために

- ケガのおそれのある仕事や運動は慎重に行うようにしましょう
- 転倒に注意しましょう(階段の上り下りは手すりにつかまるように)
- 鼻をかむときはやさしくかみましょう
- ヒゲを剃るときは電気シェーバーを使いましょう
- 歯ブラシは柔らかめを使いましょう

出血以外の副作用があらわれることがありますので、以下のような症状に気づいた場合や心配なことがある場合は、遠慮しないで医師にご相談ください。

- ・ 倦怠感(強い疲労感)
けんたいかん
- ・ あざ(紫色・赤色)や発疹(ぶつぶつ)ができる
- ・ かぜのような症状が出る(発熱、さむけ、のどの痛み)
- ・ 息苦しい
- ・ 意識が低下する
- ・ 眼や皮膚が黄色くなる
- ・ 食欲がなくなる

他の診療科を受診する際には、このお薬を服用していることを必ず医師に伝えてください。

その他にも気になることや分からないことがございましたら、医師又は薬剤師にご相談ください。